

2017/8/11

神代植物公園

## 植物多様性センターの「オミナエシ」

日本人には古くから馴染み深い植物で、万葉集や源氏物語にも登場します。漢字で女郎花と書く様になったのは平安時代で、『高貴な女性をも圧倒する(おみなやし)』美しさという意味。手入れの行き届いた溜池の土手などが好適な生育地ですが現在はその環境が減り、区部で EX(絶滅)、南多摩・西多摩で VU(絶滅危惧 II 類)にランクされています。可愛い黄色い花を散房状に多数つけ、花冠が 5 裂し雄蕊 4 個、雌蕊 1 個、花筒内部に多くの毛が生えています。果実は翼がつかず、種子は子房の 3 部屋の内のひとつだけにできます。



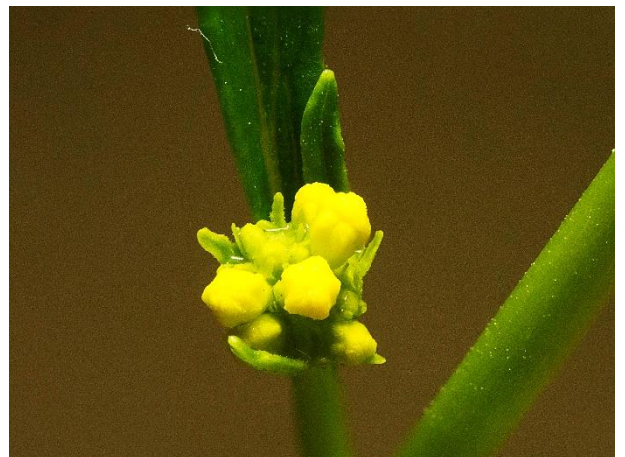
根茎が横に這い  
旧株の隣に新株ができる



筒状の小さな花  
開花期間が長い



雄蕊 4 個、雌蕊 1 個  
筒状の内部には毛がある



上部が分枝して花が咲くが、  
葉腋にも花がつく